

大規模災害の災害廃棄物処理における、県と市町村における情報発信のあり方及び災害時初動対応について

災害廃棄物対策に関するシンポジウム
パネルディスカッション
2020. 1. 14

本日のキーワード

- 初動対応

災害廃棄物処理の成否を分けるポイント

迅速な排出秩序の形成→処理がスムーズに

- 情報

災害廃棄物処理の戦略を考える基本

情報収集 情報共有 情報整理 情報発信

迅速な排出秩序の形成

- いつ、どこに、何を、どのように出すのか理解し行動してもらう
- 「ごみが集まる場所」ではなく「ごみを集める場所」をつくる



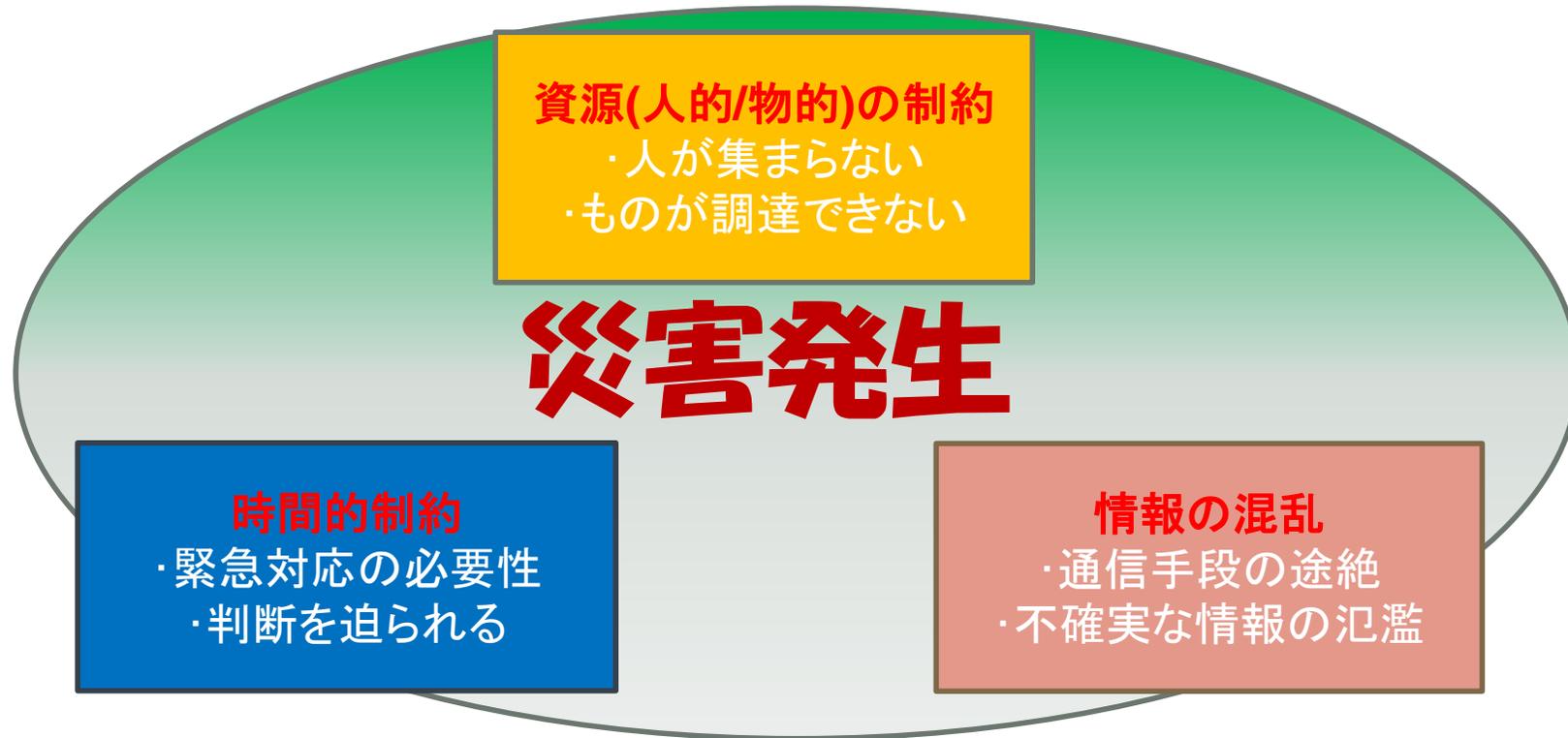
- 片付けごみの混合廃棄物化を抑制
生活環境の保全 処理の迅速化 便乗ごみの排出回避
経済性 リサイクル率向上



- 災害廃棄物処理の道筋が開ける
初動期の混乱対応に費やす労力の節減

災害発生直後の自治体の状況

- ・ 初動対応時の三重苦（廃棄物担当に限らず）



情報収集

- 災害廃棄物処理の方針・戦略の検討のため必要な情報
被害状況(処理施設、機材、道路、建物など)
災害廃棄物の排出状況 etc



- 災害発生初期の特徴として
情報は断片的で不確実なものが多い
被害の甚大な場所の情報ほど入手が困難

災害時に、どこ(誰)から、どのような手段で必要な情報入手するか

情報共有

共有する相手方 共有する情報の内容

- 被災現場・処理施設・排出場所 ⇔ 被災自治体の役所
- 自治体内の部局間（環境 ⇔ 災対本部、土木など）
- 被災自治体 ⇔ 関係機関（県/国/近隣都市/他の行政機関）
- 被災自治体 ⇔ 民間/協力機関（ボランティア団体など）

課題意識の共通化により課題解決への糸口をつかむ

情報発信

上手な(有効な)情報発信とは

- 内容、媒体、タイミングの適切さ
- 受け手側を意識することにより協力を得る
 - 住民は被災者であり、排出者である
 - 行動のよりどころとなる、ぶれないメッセージ
 - 災害廃棄物の排出には協力者(親類・ボランティアなど)が関わる場合が多い

自治体として平常時からやっておくべきことは何か 初動対応時に留意すべきことは何か

- 情報収集に関する取り組み
- 情報共有に関する取り組み
- 情報発信に関する取り組み